# 土佐日記

## 門出　―品詞分解―

男　も　す　なる　日記　と　いふ　もの　を、　女　も　し　て　み　む　とて　する　なり。

それ　の　年　の　十二月　の　二十日あまり一日　の　戌　の　刻　に、　門出　す。　そ　の　日　の　ほど　いささかに　もの　に　書きつく。

ある　人、　県　の　四年　五年　果て　て、　ことども　みな　し終へ　て、　解由　など　取り　て、　住む　館　より　出で　て、　船　に　乗る　べき　所　へ　渡る。　かれ　これ、　知る　ぬ、　送り　す　年ごろ　よく　くらべ　つる　人々　なむ、　知ら　ぬ　別れがたく　思ひ　て、　日　しきりに、　とかく　し　つつ、　ののしる　うち　に、　夜　更け　ぬ。

二十二日　に、　和泉の国　まで　と、　平らかに　立つ　。　藤原のときざね、　船路　なれ　ど、　馬のはなむけ　す。　上　中　下、　酔ひ飽き　て、　いと　あやしく、　潮海　の　ほと　り　にて、　あざれ合へ　り。

二十三日。　八木のやすのり　と　いふ　人　あり。　こ　の　人、　国　に　必ずしも　言ひ　使ふ　者　に　ぞ、　たたはしき　やう　にて、　ざ　なり。　これ　に　は　あら　ず。　守柄　に　や　あら　し　たる。

む、国人の心の常と し て、
（推・体（結））（格助・体修）（格助・引用）（サ変・用）（接助・単接）

「今は。」と て 見え ざ なる を、
（係助・区別）（格助・状態）（接助・単接）（ヤ下二・用）（打・体（撥音（無表記））（定・体）（接助・逆接）

心ある者は、恥ぢ ず に なむ 来 に、
（ラ変・体）（係助・区別）（ダ上二・未）（連語（打・用＋格助・状態））（係助・強意（係））（カ変・用）（断・用）

けること。これは、物 に より て 褒むる に
（過・体（結））（代）（係助・区別）（格助・対象）（ラ四・用）（接助・単接）（マ下二・体）

しも あら ず。
（副助・強意）（補動・ラ変・未）（打・終）

二十四日。講師、馬のはなむけ し に 出でませ り
（サ変・用）（格助・目的）（サ四・已（尊）語り手→講師）（完・終）

。ありとある上下、童まで 酔ひしれ て、一
（連語（ラ変・用＋格助・状態＋ラ変・体））（副助・範囲）（ラ下二・已）（接助・単接）

文字を だに 知ら ぬ 者、し が 足は
（格助・対象）（副助・類推）（ラ四・未）（打・体）（代）（格助・体修）（係助・区別）

十文字に 踏み て ぞ 遊ぶ。
（格助・状態）（マ四・用）（接助・単接）（係助・強意（係））（バ四・体（結））